

I. 「学生による授業評価 2025」の概要

I-1. 目的

本学では、授業に関する学生の理解の状況や満足感・充実感等を把握することによって、教育内容や教授方法、講義資料及び学習支援システム・施設等の改善に資することを目的とし、2005年度より自己点検・評価の一環として学生による授業評価を導入した。本年度は、第21回目となり、例年の通り2025年度に新規開設した科目を評価の対象とした。

以下、その量的分析結果及び自由記述の内容を報告する。

学生による授業評価は、個々の科目に対する学習者の視点からの具体的で詳細なフィードバックを得ることを企図して実施される調査である。その主な目的は、次の通りである。

- (1) 個別授業科目の改善支援……個々の科目を受講者がどのように学習し、どう評価しているかを項目ごとに把握することにより、次の科目改訂等に際して改善すべき点の発見を容易にするような資料を提供する。
- (2) カリキュラム全体の改善支援……コースまたは領域、プログラム（群）における、より効果的なカリキュラム構成や水準のバランス等を検討する上での有効な資料を提供する。
- (3) 認証評価に関わる資料提供……大学に対して社会的に強く求められている定期的な認証評価に際しての重要な資料を提供する。

しかし、一般の大学とは異なり、放送大学においては授業評価の結果をそうした目的にストレートに用いることが必ずしも容易ではない。そこには、次のような放送大学に固有のいくつかの条件と特殊事情があり、結果の利用には一定の留保が求められることになるからである。

第1に、放送大学では、収録された放送授業を4年間継続して放送する原則になっていることである。そのため、たとえ授業評価で改善点が明確に示唆されたとしても、即座にそれを改善する（つまり、評価の次年度に改訂版を収録する）ことが非常に難しいのである。

第2に、放送大学の主任講師は半数程度が客員教員であり、その場合、必ずしも科目の改訂を同一教員がするとは限らないことである。主任講師が交代すると、科目の内容や構成が変わってしまう場合があるため、前科目に対する評価は往々にして参考程度の意味しか持たないことになるのである。

第 3 に、放送大学は公開大学であり学部には入学試験がないこともあって、他の一般大学に比して学生集団は多様で流動的であり、そこに一定のまとまった特性を求めることは難しい。授業評価で得られた結果も他の大学よりはるかに分散が大きいことが容易に予想される。したがって、たとえ結果を得たとしても、どの層の学生をターゲットとして授業改善をしていったらよいのか、必ずしも明確ではないのである。事実、過去の数次にわたる授業調査で毎回見られることであるが、例えば、「放送授業と印刷教材はできるだけ同一の内容に」と「放送授業と印刷教材の内容が同じでは別の教材である意味がない」とは、常に同じくらい多く書かれる意見である。もちろん、そうした意見の平均や中間点を採用してもあまり意味がないことは言うまでもない。

そして、第 4 に、放送大学は教員の 5 年任期制を採っており、再任のためには 5 年ごとの内部審査の通過が必要とされることである。そのため、個々の教員の評価にストレートに結びつきがちな授業評価の実施に対しては、当初より慎重論も決して少なくなかった。したがって、上述した第 3 の特性を持つ授業評価に関しては、授業改善あるいはカリキュラム改善のためにのみ結果を用いる、という確たる合意が必要とされるのである。

I-2. 構成と内容

本学生による授業評価調査（放送授業）は、大きく分けて 3 つの部分からなっている。

第 1 は、当該科目への取組姿勢、放送授業、印刷教材、単位認定試験等について 4 段階で評価する評定尺度質問である。その内容は、①当該科目にどれだけ熱心に取り組んだかを示す回答者自身の自己評価と、②授業の難易度・分量、放送授業、印刷教材、通信指導・単位認定試験および全体的に見た授業評価の 2 つに分かれる。

第 2 は、当該科目のよかった点、改善すべきだと感じた点、本学の教育システム全般への意見に関する質問であり、自由に記述してもらう形態を採った。

そして、第 3 は回答者の属性に関する質問である。

実際に使用した調査票については 14,15,16 頁と 19,20 頁を参照されたい。

I-3. 方法と期間

評価の対象としたのは、2025 年度第 1 学期に本学で開講していた放送授業のうち、本年度に開設した科目及び前年度第 2 学期に開設した科目（開講 1 年目の科目）、学部 39 科目（オンライン授業 10 科目を除く）、大学院 10 科目（オンライン授業 5 科目を除く）、計 49 科目である（表 1-1 参照）。このような選定システムにすることで、開設後 4 年間継続して放送することとされている全科目が、開講期間中に必ず 1 回授業評価の対象とされることになる。

表1-1 コース・プログラム別の評価対象科目数および有効回答数（オンライン授業を除く）

【学部】

コース	科目数		有効回答	
	2025年度		2025年度	
	全開設	評価対象	人数	構成比
基盤科目	21	2	743	15%
基盤科目(外国語)	16	4	694	14%
生活と福祉	42	7	1133	22%
心理と教育	56	4	824	16%
社会と産業	53	9	568	11%
人間と文化	46	4	423	8%
情報	43	4	324	6%
自然と環境	36	3	208	4%
看護師資格取得	5	2	191	4%
夏季集中科目	5	0	0	0%
全体	323	39	5108	100%

【大学院】

プログラム	科目数		有効回答	
	2025年度		2025年度	
	全開設	評価対象	人数	構成比
生活健康科学	21	3	56	22%
人間発達科学	10	3	116	46%
臨床心理学	11	2	43	17%
社会経営科学	12	0	0	0%
人文学	11	0	0	0%
情報学	14	2	35	14%
自然環境科学	12	0	0	0%
全体	91	10	250	100%

※構成比は、小数点第一位を四捨五入しているため、各項目の数値を合計しても100%にならない場合がある。

2018年度より、教務情報システム（システムWAKABA）のアンケート機能を用いたオンライン調査とし、評価対象科目を受講した学部 26,241名、大学院 870名、計 27,111名（いずれも延べ人数）に対し、学内連絡及びメールにて周知を行い、実施した。

調査期間は第1学期単位認定試験終了後の7月24日から9月30日までの65日間とし、有効回答数は学部 5,108人、大学院 250人、計 5,358人であった。有効回答率は学部 19.5%、大学院 28.7%、全体で 19.8%と、2024年度の有効回答率（2024年度新規開設科目学部 9.6%、大学院 16.0%、全体 9.7%）と比較すると学部、大学院共に有効回答率が上昇した。

※オンライン授業を除く

表1-2 調査対象者数および有効回答率

	2025年新規開設科目			2024年新規開設科目			2023年新規開設科目		
	対象者数	有効回答者数	有効回答率	対象者数	有効回答者数	有効回答率	対象者数	有効回答者数	有効回答率
学部	26,241	5,108	19.5%	28,833	2,772	9.6%	25,824	4,881	18.9%
大学院	870	250	28.7%	319	51	16.0%	343	90	26.2%
計	27,111	5,358	19.8%	29,152	2,823	9.7%	26,167	4,971	19.0%

I-4. 時系列分析

報告書の一部に過去2年度の調査との比較を掲載した。

本調査は原則として開講1年目の科目を対象とするため、調査対象科目は年度ごとに異なっているという事情がある。本来ならば、時系列分析は同一の科目同士あるいは同一科目から構成されるコース（プログラム）を比較対象としてこそ、その意義が発揮されるであろう。しかし、対象科目が異なるとはいえ、年度ごとに開設された放送授業の全体的な傾向及びその方向性を見る上では参考になると思われる。

I-5. 回答者の特性

(1) 回答者の属性分布と母集団との比較

※ pt:ポイント

(次頁表1-3)は、回答者の属性分布と母集団(全受講登録者)の属性分布を比較したものである。両者を比較して、回答者の属性分布と母集団の属性分布間に乖離がないか確認を行う。

学部では、男性は-5.0pt、女性は+5.0ptで、母集団より男性が少なく、女性が多かった。

年齢階層別では19歳以下~30歳代までがマイナスで、20歳代(-11.7pt)と30歳代(-6.4pt)が、母集団との差が大きかった。

一方で母集団より高かったのは50歳代~70歳以上で、50歳代(+8.1pt)と60歳代(+8.1pt)の差が特に大きかった。

学生種別では選科履修生が-2.4ptと科目履修性が+2.5%と母集団との乖離がやや大きかった。

大学院の性別では男性が-10.5pt、女性は+10.5ptで、学部同様、母集団より女性が多く、男性が少なかった。年齢階層別では、30~50歳代までが母集団より低くなっていた。学生種別では修士全科生は母集団より1.1pt高く、修士科目生は逆に1.1pt低かった。

1-3 回答者の属性分布

【学部】

		2025年新規開設科目			2024年新規開設科目			2023年新規開設科目		
		回答者	母集団 (全受講 登録者)	母集団 との差	回答者	母集団 (全受講 登録者)	母集団 との差	回答者	母集団 (全受講 登録者)	母集団 との差
性別	男性	39.6%	44.6%	▲5.0pt	43.8%	40.3%	3.4pt	43.6%	43.6%	0.0pt
	女性	60.4%	55.4%	5.0pt	56.2%	59.7%	▲3.4pt	56.4%	56.4%	0.0pt
年齢階層別	19歳以下	3.0%	4.6%	▲1.6pt	2.2%	2.5%	▲0.3pt	1.2%	1.9%	▲0.7pt
	20～29歳	10.6%	22.3%	▲11.7pt	9.9%	18.1%	▲8.2pt	8.2%	18.0%	▲9.8pt
	30～39歳	11.3%	17.7%	▲6.4pt	9.7%	15.2%	▲5.5pt	8.9%	14.8%	▲5.9pt
	40～49歳	20.1%	20.0%	0.0pt	17.4%	21.5%	▲4.1pt	18.8%	20.1%	▲1.3pt
	50～59歳	27.1%	19.1%	8.1pt	28.4%	20.6%	7.7pt	29.5%	21.8%	7.7pt
	60～69歳	18.7%	10.7%	8.1pt	22.9%	12.8%	10.1pt	21.9%	13.4%	8.5pt
	70歳以上	9.2%	5.7%	3.5pt	9.6%	9.3%	0.3pt	11.5%	10.0%	1.5pt
学生種別	全科履修生	70.6%	70.7%	▲0.1pt	79.8%	71.0%	8.8pt	76.3%	75.9%	0.4pt
	選科履修生	19.0%	21.4%	▲2.4pt	16.7%	24.3%	▲7.6pt	16.8%	17.5%	▲0.7pt
	科目履修生	10.4%	7.9%	2.5pt	3.5%	4.7%	▲1.3pt	6.9%	6.6%	0.3pt
人数(N)		5,108	-	-	2,772	-	-	4,881	-	-

pt: ポイント

【大学院】

		2025年新規開設科目			2024年新規開設科目			2023年新規開設科目		
		回答者	母集団 (全受講 登録者)	母集団 との差	回答者	母集団 (全受講 登録者)	母集団 との差	回答者	母集団 (全受講 登録者)	母集団 との差
性別	男性	51.6%	62.1%	▲10.5pt	58.8%	61.1%	▲2.3pt	53.5%	50.7%	2.8pt
	女性	48.4%	37.9%	10.5pt	41.2%	38.9%	2.3pt	46.7%	49.3%	▲2.6pt
年齢階層別	20～29歳	0.0%	0.0%	0.0pt	0.0%	0.0%	0.0pt	1.1%	5.0%	▲3.9pt
	30～39歳	4.0%	7.6%	▲3.6pt	2.0%	5.0%	▲3.1pt	7.8%	11.7%	▲3.9pt
	40～49歳	7.6%	19.4%	▲11.8pt	11.8%	25.7%	▲13.9pt	23.3%	25.1%	▲1.8pt
	50～59歳	20.4%	27.9%	▲7.5pt	37.3%	32.0%	5.3pt	33.3%	31.5%	1.8pt
	60～69歳	32.0%	21.9%	10.1pt	27.5%	14.4%	13.0pt	32.2%	22.7%	9.5pt
	70歳以上	25.2%	9.0%	16.2pt	21.6%	4.7%	16.9pt	2.2%	4.1%	▲1.9pt
学生種別	修士全科生	30.8%	29.7%	1.1pt	37.3%	12.9%	24.4pt	34.4%	12.8%	21.6pt
	修士選科生	60.8%	60.8%	0.0pt	54.9%	66.1%	▲11.2pt	61.1%	80.8%	▲19.7pt
	修士科目生	8.4%	9.5%	▲1.1pt	7.8%	21.0%	▲13.2pt	4.4%	6.4%	▲2.0pt
人数(N)		250	-	-	51	-	-	90	-	-

pt: ポイント

以下、今回の評価結果を分析する上で、回答者の特性からみて留意すべき点を明らかにするために、回答者の属性についてさらに見ていくことにする。

(2) 年齢階層別の分布 (2025 年新規開設科目)

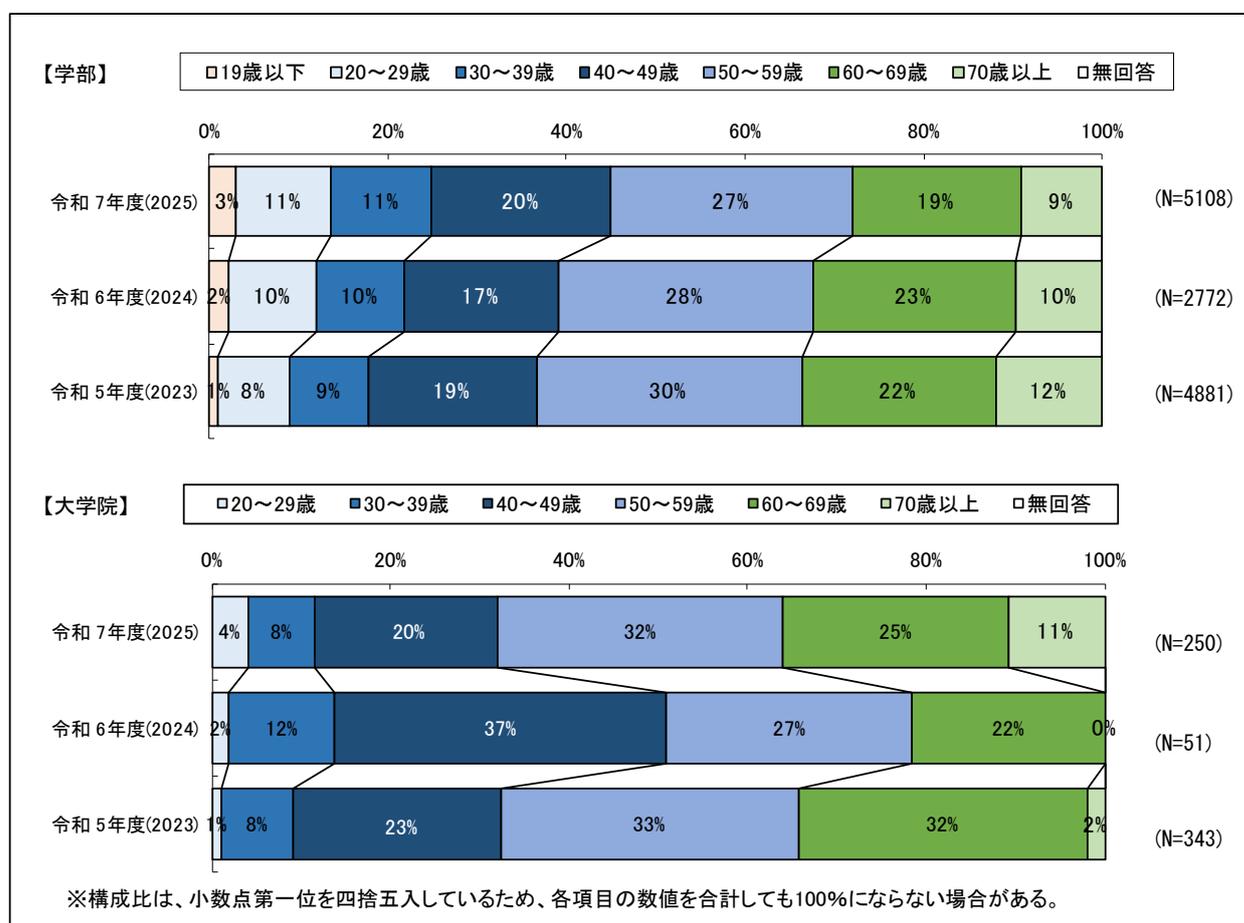
年齢階層別に本年度 (2025 年新規開設科目) の回答者の分布を見ると (図 1-1)、学部では 50 歳代が最も多く 27%、次いで 40 歳代が 20%、60 歳代が 19% となり、40 歳代から 60 歳代で約 7 割を占めていた。

昨年度と比べると、19 歳以下、20 歳代、30 歳代、40 歳代が増え、50 歳代、60 歳代、70 歳以上が減少した。

大学院は学部同様、50 歳代が 32% で最も多く、40 歳代から 60 歳代の構成比が全体の約 8 割に達していた。

昨年度と比べると、20 歳代、50 歳代、60 歳代、70 歳以上が増加し、30 歳代、40 歳代が減少した。

図 1-1 年齢階層別回答者



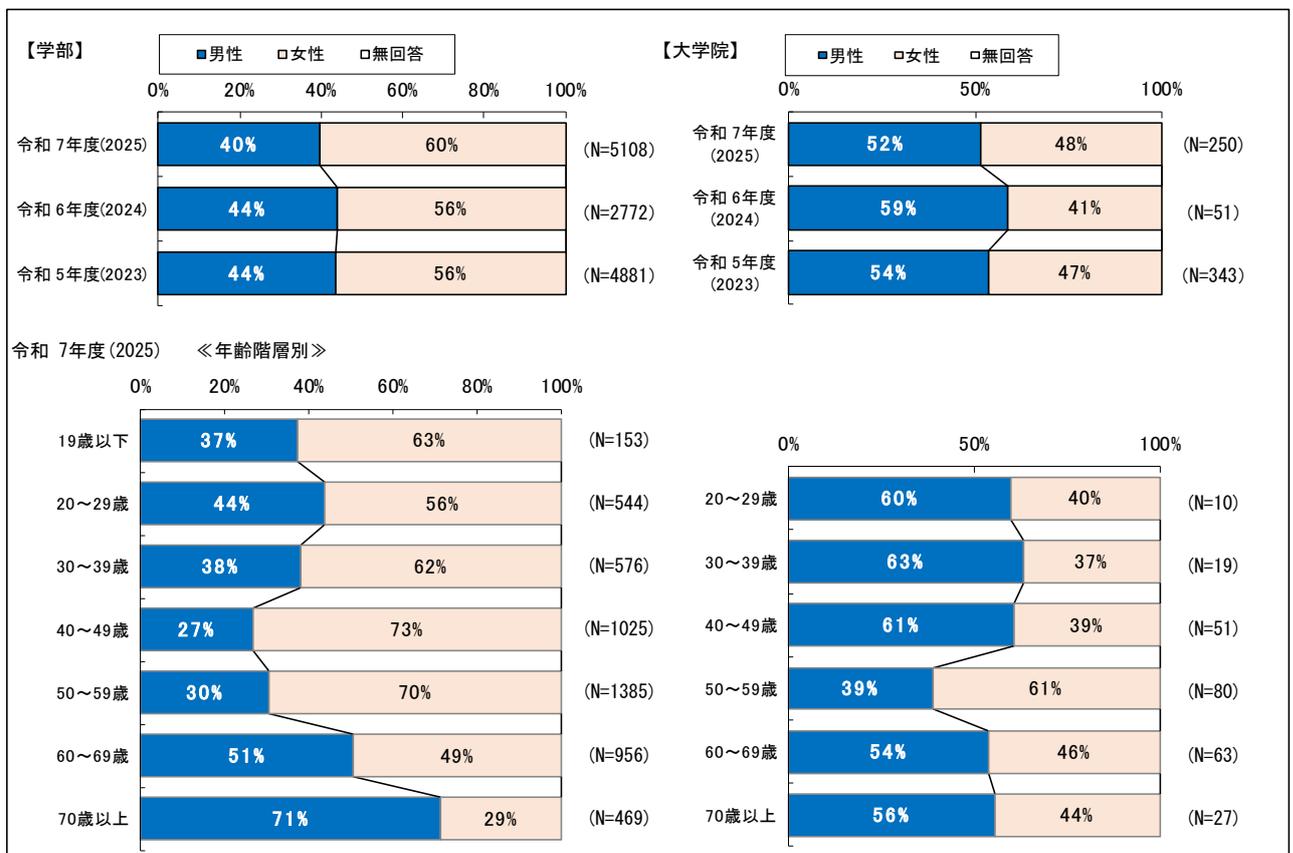
(3) 性別の傾向（2025年新規開設科目）

学部について、男女別全体では（図1-2）、「男性」は40%、「女性」は60%となり、昨年度より女性の割合が増加した。

年代毎の男女の構成を見ると、19歳以下から50歳代までは女性の割合が多く、逆に60歳代以上から男性が多くなり、70歳以上は男性が約7割を占めていた。

大学院では、「男性」52%、「女性」48%で、昨年度より女性が7ポイント増加していた。年代別では総じて男性の割合が多く、中でも20歳代、30歳代、40歳代は6割以上を占めていた。

図1-2 性別回答者



(4) 職業別分布 (2025 年新規開設科目)

学部在籍者の職業は (図 1-3)、「会社員」が最も多く 20%、次いで「無職」(17%) 「パート・アルバイト」(16%) が続いている。

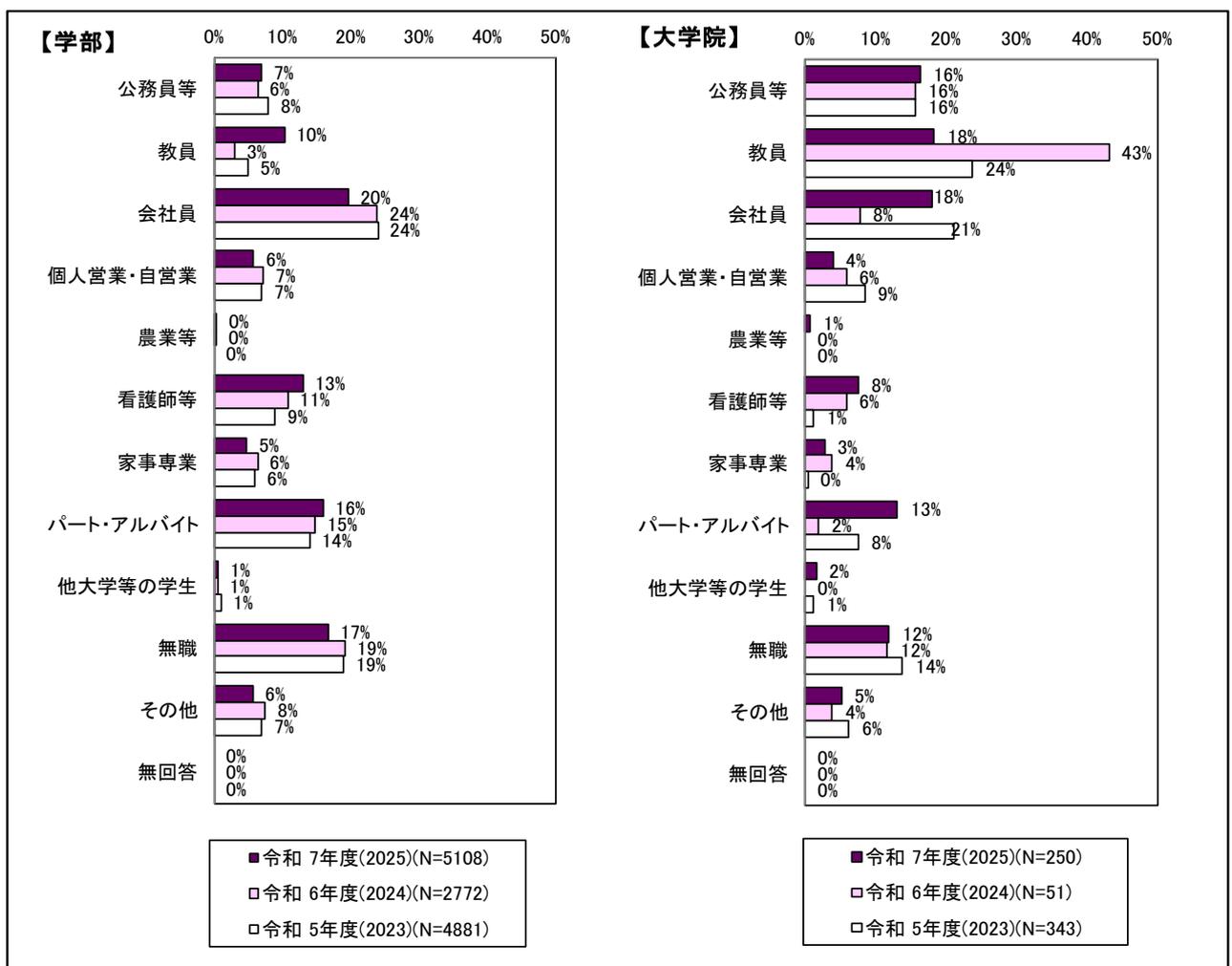
時系列で見ると、昨年度と比べ、「教員(10%)」が 7 ポイント増と大きく増加。また「看護師等(13%)」が 2 ポイント増加したのに対して、「会社員 (20%)」が 4 ポイント減少した。

大学院では「教員」「会社員」が 18%と最も多く、次いで「公務員等 (16%)」、「パート・アルバイト (13%)」が続いていた。

時系列で見ると、年々増加していた「教員」が 25 ポイント減と大幅に減少する一方、「パート・アルバイト」「会社員」が 10 ポイント以上増加した。

なお、ここでの年齢別、性別、職業別の回答者の割合は、調査対象年度の科目による相違も影響しているため、放送大学の全学生の構成や時系列変化とは必ずしも同じではないことに注意されたい。

図 1-3 回答者の職業



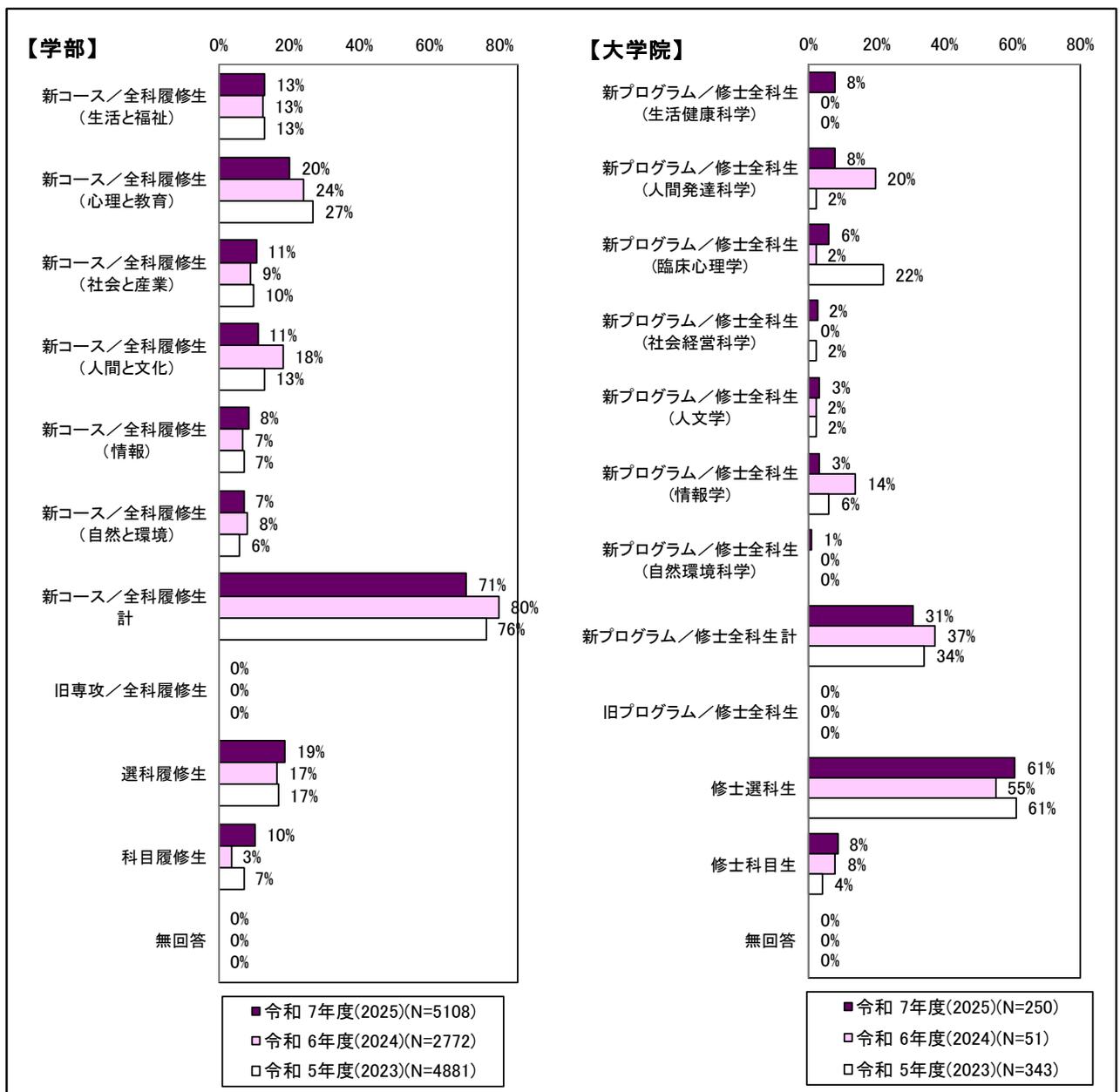
(5) 所属コース（プログラム）別分布（2025 年新規開設科目）

所属コース（プログラム）別の分布では（図1-4）、学部は全科履修生（新コース）が71%となるも、昨年度より9ポイント減少していた。内訳では、「心理と教育（20%）」が最多となるも、昨年度より4ポイント減少。

大学院では修士選科生が61%を占めており、修士全科生（新プログラム）が31%、修士科目生が8%であった。

修士全科生の所属プログラムでは「人間発達科学（8%）」と「生活健康科学（8%）」が上位であった。

図1-4 回答者の所属コース（プログラム）



I-6. 評価結果の提供と公表

I-6-1. 評価結果の提供

本授業評価は、先にも掲げたように「個別授業科目の改善支援」「カリキュラム全体の改善支援」「認証評価に関わる資料提供」という3つの大きな目的のもとに実施開始年度当初に企画された。また、当時の授業評価小委員会（以下「小委員会」という。）での検討の結果、得られたデータは次のように資料提供されることとなった。

- (1) 当該科目を担当した主任講師への提供……担当科目の詳細な評価結果を主任講師に提供する。担当科目の評価結果には、担当科目と比較可能な全科目平均等及び自由記述部分が含まれる。
- (2) コース主任及びプログラム・コーディネーターへの提供……全てのコース・プログラムに対して、その関係する資料一式を提供する。
- (3) 教授会及び教務委員会等関連委員会への提供……大学全体のカリキュラム編成に関しての検討や意思決定に際しての資料とするため、教授会及び各委員会に提供する。実際に主任講師等へ提供した個別科目に関する資料の内容は、12頁～20頁の「提供資料サンプル」に示した通りである。

I-6-2. 評価結果の公表

さて、収集された授業評価の結果は授業改善の目的で用いることに加えて、現在では大学の社会的責務として評価結果の公表を強く求められていることから、以下のことを基本的な方針とすることとしている。

(1) 公表への基本姿勢

授業評価の結果については、基本的にできる限り広く社会に提示することが必要である。放送大学に課せられた社会的使命、教育体系全体における位置付け、そして納税者国民への説明責任等を勘案するならば、言うまでもなくそれが理の当然である。そこで、当面は以下に示す形態で公表していくこととする。

(2) 公表する内容

以下のデータに関して公表することとする。

- ① 調査の概要 : 授業評価の目的、方法、実施時期、調査対象者数、調査票等
- ② 回答者の概要 : 基本属性別に見た有効回答者数
- ③ 評点平均 : 全対象科目を総計した結果について、回答者の属性別、科目の分野別、メディア別等の各設問の評点平均値
- ④ 自由記述の概略 : 特徴的・代表的な記述

(3) 公表の方法

(2)の内容について、放送大学ホームページ等で適宜公表することを基本とする。

I-7. その他

オンライン授業科目について

2015 年度から開設されたオンライン授業科目については、原則放送授業に準じた授業評価項目をアンケート調査することとしているが、次の理由により全体集計には入れず、「Ⅲ. 自由記述のまとめ」に当該科目の自由記述の集計等を参考情報として掲載するに留める。

- ・調査時期が異なること
- ・放送授業と同様に調査できない項目が一部あること（例：印刷教材を作成していない）
- ・対象科目が少ない（学部 10 科目、大学院 5 科目）こと

提供資料サンプル【学部】

学部1 2025年度学生による授業評価の調査結果【2025年度新規開設科目】（単純集計）

コース・プログラム等 ○○○○

科目名（コード） ○○○○

(○○○○)

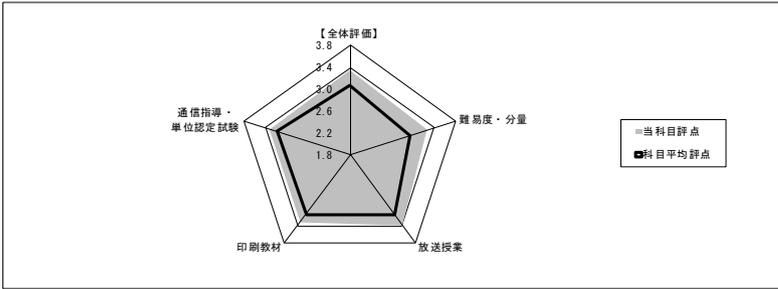
教員氏名 ○○○○

(注) 平均評点は、「あてはまる：4点」「ややあてはまる：3点」「あまりあてはまらない：2点」「あてはまらない：1点」として算出。

1. 取組み姿勢

	設問内容	有効回答	回答割合				平均評点			【当科目評点と、TV科目平均評点との差】
			あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	当科目評点	全体平均評点	科目平均評点	
取組み姿勢	A-1 全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ	208	44%	33%	18%	5%	3.46	3.44	3.17	0.29
	A-2 放送授業を十分に視聴した	208	46%	33%	17%	5%	3.32	3.25	3.20	0.12
	A-3 印刷教材を熱心に学習した	208	30%	46%	21%	3%	3.39	3.39	3.03	0.36

2. 授業評価



	設問内容	有効回答	回答割合				平均評点			【当科目評点と、TV科目平均評点との差】
			あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	当科目評点	全体平均評点	科目平均評点	
難易度・分量	B-1 放送授業の難易度は適切だった	208	23%	52%	18%	8%	3.23	3.25	2.89	0.34
	B-2 放送授業の内容は適切な分量であった	208	29%	44%	21%	6%	3.29	3.31	2.95	0.34
	B-3 印刷教材の難易度は適切だった	208	21%	52%	23%	5%	3.23	3.25	2.89	0.34
	B-4 印刷教材の内容は適切な分量であった	208	30%	50%	15%	5%	3.30	3.32	3.06	0.24
放送授業	B-5 講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	208	33%	36%	24%	6%	3.35	3.31	2.97	0.38
	B-6 放送授業は教材としてよくできていると感じた	208	53%	36%	6%	5%	3.54	3.50	3.38	0.16
	B-7 テレビの特性が十分に生かされていると感じた	208	35%	44%	14%	8%	3.37	3.34	3.06	0.31
	B-8 ロケ映像や資料映像によって、理解が深まった	208	50%	32%	9%	9%	3.32	3.23	3.23	0.09
	B-9 ゲストや聞き手によって、理解が深まった	208	36%	47%	14%	3%	3.35	3.34	3.17	0.18
印刷教材	B-10 印刷教材と放送教材との内容的関連性は適切だった	208	29%	46%	21%	5%	3.25	3.25	2.98	0.27
	B-11 印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった	208	46%	47%	6%	2%	3.31	3.18	3.36	-0.05
	B-12 図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った	208	33%	50%	14%	3%	3.34	3.32	3.14	0.20
	B-13 印刷教材は教材としてよくできていると感じた	208	30%	52%	11%	8%	3.32	3.32	3.05	0.27
通信指導・単位認定試験	B-14 通信指導のコメントは、納得のいくものだった	208	47%	42%	8%	3%	3.42	3.42	3.33	0.09
	B-15 通信指導は学習内容の理解に役立った	208	38%	35%	20%	8%	3.22	3.25	3.03	0.19
	B-16 単位認定試験の問題は、科目内容の理解度ををはかるのにふさわしい内容だった	208	39%	46%	11%	5%	3.34	3.34	3.20	0.14
全体評価	B-17 授業科目内はこの科目の内容を知る上で役に立った	208	39%	41%	15%	5%	3.42	3.42	3.15	0.27
	B-18 学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった	208	56%	35%	5%	5%	3.51	3.52	3.42	0.09
	B-19 新しい知識が身につく視野が広がった	208	20%	47%	24%	9%	3.20	3.21	2.77	0.43
	B-20 この科目の内容を全体としてよく理解できた	208	33%	42%	20%	5%	3.40	3.39	3.05	0.35
	B-21 この科目の内容には全体として満足している	208	29%	46%	21%	5%	3.25	3.25	2.98	0.27

3. 回答者の属性（単位：人）

学生種別	全科履修生（新コース所属）						全科履修生（旧コース所属）	全科履修生【小計】	選科履修生	科目履修生	無回答	計
	生活と福祉	心理と教育	社会と産業	人間と文化	情報	自然と環境						
	17	38	33	51	10	12	0	161	38	9	0	208

性別	男性	女性	無回答	計	年齢	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	無回答	計
		100	108	0		208		8	13	29	44	59	44	11

職業	公務員等	教員	会社員	個人営業・自営業	農業等	看護師等	家事専業	パート・アルバイト	他大学等の学生	無職	その他	無回答	計
		18	6	61	13	0	5	14	39	1	37	14	0

通信指導・単位認定試験	単位認定試験		通信指導		計	単位認定のための学習方法	ほとんど放送教材の学習だけで臨んだ		ほとんど印刷教材の学習だけで臨んだ		放送教材と印刷教材の両方の学習で臨んだ	無回答	計
	受験	未受験	未提出	提出									
	188	7	7	6	208		19	27	162	0	0	208	

提供資料サンプル【学部】

2025年度学生による授業評価の調査結果【2025年度新規開設科目】（学生種別、通信指導提出状況・単位認定試験出席状況別クロス集計）【全体一覧】

学部	A-1 全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ。										A-2 放送授業を十分に視聴した。									
	回答数	選択肢別の回答割合・回答数					肯定評価	平均	回答数	選択肢別の回答割合・回答数					肯定評価	平均				
		4	3	2	1	レポなし				無回答	4	3	2	1			レポなし	無回答		
合計（全体）	5108	50%	40%	9%	1%	0%	89%	3.38	5108	47%	34%	14%	4%	0%	81%	3.24				
学 生 種 別	生活と福祉	670	33%	28%	4%	3%	92%	3.41	670	43%	39%	15%	4%	0%	82%	3.20				
	心理と教育	1039	48%	41%	10%	1%	89%	3.36	1039	44%	37%	15%	5%	0%	81%	3.20				
	社会と産業	543	48%	41%	11%	1%	89%	3.36	543	48%	32%	15%	5%	0%	80%	3.23				
	人間と文化	562	48%	41%	9%	1%	89%	3.36	562	28%	19%	61%	22%	0%	47%	3.32				
	情報	432	45%	40%	11%	4%	85%	3.26	432	48%	32%	15%	6%	0%	80%	3.22				
	自然と環境	362	47%	39%	12%	2%	85%	3.30	362	48%	30%	18%	5%	0%	77%	3.20				
	旧専攻所属		16%	14%	4%	8%	0%	30%	2.92	173	17%	10%	64%	18%	0%	28%	2.89			
	全科履修生	3608	48%	41%	10%	2%	0%	89%	3.35	3608	46%	35%	14%	5%	0%	81%	3.23			
	【小計】		17%	14%	3%	5%	0%	32%	3.42		16%	12%	5%	1%	0%	37%	3.29			
	選科履修生	969	51%	39%	10%	0%	0%	90%	3.40	969	47%	33%	17%	4%	0%	80%	3.23			
認 定 試 験 指 導	科目履修生	531	62%	30%	7%	1%	92%	3.53	531	45%	32%	10%	4%	0%	86%	3.36				
	単 位 受 験	4525	33%	15%	8%	1%	48%	3.42	4525	54%	32%	10%	4%	0%	86%	3.36				
	試験認定未受験	108	52%	40%	8%	1%	91%	3.42	108	49%	35%	13%	4%	0%	83%	3.29				
通信指導未提出	178	23%	26%	23%	12%	0%	65%	2.73	178	23%	24%	19%	16%	0%	65%	2.65				
		69%	47%	41%	21%	0%	11%	2.92		73%	42%	34%	29%	0%	11%	2.89				

2025年度学生による授業評価調査票（学部）

次の科目についてお答えください。

科目名	
科目コード	

- I. この授業科目を学習して、あなたはどのような印象や感想をお持ちになりましたか。次の①～④及び(1)～(21)の項目について、あてはまる程度を4段階で評価し、4～1の番号にそれぞれ1つだけ○を付けてください。（この面が済みましたら、裏面にもお答えください。）

（注）通信指導を提出していない方、単位認定試験を受験していない方についても、回答できる範囲でお答えください。

あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
-------	---------	------------	---------

A. 授業評価をしていただく前に、あなたの授業への取組みについてお尋ねします。

①	全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ。	4	3	2	1
②	放送授業を十分に視聴した。	4	3	2	1
③	印刷教材を熱心に学習した。	4	3	2	1
④	単位認定のための学習方法について、次の1～3のいずれか一つを選んでください。 1. ほとんど放送教材の学習だけで臨んだ。 2. ほとんど印刷教材の学習だけで臨んだ。 3. 放送教材と印刷教材の両方の学習で臨んだ。				

B. 以下のアンケートにお答えください。

＜授業の難易度・分量＞					
(1)	放送授業の難易度は適切だった。	4	3	2	1
(2)	放送授業の内容は適切な分量であった。	4	3	2	1
(3)	印刷教材の難易度は適切だった。	4	3	2	1
(4)	印刷教材の内容は適切な分量であった。	4	3	2	1
＜放送授業＞					
(5)	講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった。	4	3	2	1
(6)	放送授業は教材としてよくできていると感じた。	4	3	2	1
(7)	（テレビ科目についてのみお答えください） テレビの特性が十分に生かされていると感じた。	4	3	2	1
	（ラジオ科目についてのみお答えください） 映像がなくても十分理解できる内容だと感じた。				
(8)	（テレビ科目についてのみお答えください） ロケ映像や資料映像によって、理解が深まった	4	3	2	1
	（ラジオ科目についてのみお答えください） ロケ音声や資料音声によって、理解が深まった				
(9)	ゲストや聞き手によって、理解が深まった	4	3	2	1
＜印刷教材＞					
(10)	印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった。	4	3	2	1
(11)	印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった。	4	3	2	1
(12)	図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った。	4	3	2	1
(13)	印刷教材は教材としてよくできていると感じた。	4	3	2	1
＜通信指導・単位認定試験＞					
(14)	通信指導のコメントは、納得のいくものだった。	4	3	2	1
(15)	通信指導は学習内容の理解に役立った。	4	3	2	1
(16)	単位認定試験の問題は、科目内容の理解度ををはかるのにふさわしい内容だった。	4	3	2	1

提供資料サンプル【学部】

＜全体評価＞					
(17)	授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った。	4	3	2	1
(18)	学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった。	4	3	2	1
(19)	新しい知識が身につけ視野が広がった。	4	3	2	1
(20)	この科目の内容を全体としてよく理解できた。	4	3	2	1
(21)	この科目の内容には全体として満足している。	4	3	2	1

Ⅱ. 次の点について、ご自由にお書きください。

- (1) この科目を受講してよかったと思う点をお書きください。

- (2) この科目を受講して、放送授業をさらによくするために改善すべきだと感じた点（例：ロケ、ゲスト、図表等の画像、演出の工夫等）をお書きください。

- (3) この科目を受講して、その他のことで改善すべきだと感じた点をお書きください。

- (4) この科目に限らず、本学の教育内容や教育方法等についてご意見やご感想があれば、どんなことでも結構ですので、ご自由にお書きください。

Ⅲ. この科目の通信指導と単位認定試験についてお答えください。（あてはまる番号に○を付けてください。）

1. 通信指導を提出し、単位認定試験を受験した。
2. 通信指導を提出したが、単位認定試験は受験しなかった。
3. 通信指導を提出しなかった。

提供資料サンプル【学部】

IV. あなたご自身についてお答えください。(あてはまる番号にそれぞれ○を付けてください。)

(1) 学生種別	<p>【全科履修生 新コース所属の方】</p> <p>1. 生活と福祉 2. 心理と教育 3. 社会と産業 4. 人間と文化 5. 情報 6. 自然と環境</p> <p>【全科履修生 旧専攻所属の方】</p> <p>7. 生活と福祉 8. 発達と教育 9. 社会と経済 10. 産業と技術 11. 人間の探究 12. 自然の理解</p> <p>【選科履修生・科目履修生】</p> <p>13. 選科履修生 14. 科目履修生</p>
(2) 性別	1. 男性 2. 女性
(3) 年齢	1. 19歳以下 2. 20～29歳 3. 30～39歳 4. 40～49歳 5. 50～59歳 6. 60～69歳 7. 70歳以上
(4) 職業	1. 公務員等 2. 教員 3. 会社員 4. 個人営業・自営業 5. 農業等 6. 看護師等 7. 家事専業 8. パート・アルバイト 9. 他大学等の学生 10. 無職 11. その他 ()

どうもありがとうございました。